

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・インバウンドが堅調に推移している。国内線においては、修学旅行客が増えているほか、卒業旅行とみられる若い世代の客もみられる。これらのことから、来客数は引き続き前年比2けたの伸びとなっている。
	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・2月27日時点で利用者数が前年を35%上回っている。こうした利用者の増加傾向は今年度に入ってから継続しており、特に個人利用の外国人観光客の増加が顕著である。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・地元の人々の動きは余り良くないが、観光客の入込が順調で客先の売上に大きく貢献している。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・当地恒例の冬のイベントに加えて、春節の効果もあって、中国人を始めとしたインバウンドの売上が想定を上回って推移した。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・婦人フォーマル、セレブレイトスーツなど、学校行事関連商材の動きが良い。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・外国人観光客が大幅に増加していることで、ホテルや居酒屋などが混雑するようになり、地域全体に活気が出ている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、受注量が伸びている。ただし、前年と比べるとやや落ち込んでいる。株価が上がっていても、一般家庭の消費行動にはそこまで反映されていない。
	○	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・冬季観光シーズンとなり、各地の冬のイベントや春節の効果もあって、インバウンドを中心ににぎわった。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・2月初旬は春節の効果もあり、インバウンド需要が伸びた。中旬は気温が上昇したことで、冬のイベントが中止になるなどの影響がみられたものの、月全体をみると、観光消費は上向きとなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行需要は3か月前と比べてやや増加している。貸切バス料金や宿泊料金の値上げが続いていることで旅行単価が上昇傾向にあるものの、成約率も上昇傾向にある。
	○	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・来店予約なしの客が増えている。旅行という娯楽を考える余裕が出始めていることがうかがえる。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の来客数が微増している。ただし、夜間の来客数は低迷したままである。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・少数ではあるが、例年と比べてインバウンドの利用が増えている。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売点数が2から3%減っている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・原材料価格の上昇に伴って、商品の価格も目に見えて上がっていることもあって、客の様子は決して良いものではない。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・昼間も夜間も来街者数が減少している。特に夜間は新年会などの飲み会が落ち着いたこともあって、夜型飲食店の利用が団体客、個人客共に減少した。また、管外からのビジネス客や観光客も前年並み以下となっている。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は突然の大雪に何度も見舞われたことから、大雪の日を中心に客足が鈍り、苦戦を強いられた。ただし、当地恒例の冬のイベント期間中は天候に恵まれ、旅行客も多かったことから、にぎわいがみられた。2月全体としては比較的好調であった。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上は2023年比127.1%、2022年比595.5%、2021年比1158.3%、2020年比191.5%となっている。	
□	一般小売店（経営者）	販売量の動き	・売上は悪くないが、来客数が減っている。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・売上は増加しているものの、購買単価の高いインバウンドによるところが大きい。一般の消費者は物価上昇に対応するべく消費を控えている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・株価が上昇傾向にあるものの、個人の給料が上がっていないことから、景気は変わっていない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	単価の動き	・雪や寒さの影響で商圈が狭くなっていることから、数か月前と比べると、来客数の伸びが緩やかになっている。ただし、商品の値上げが続いているなか、客単価も伸びており、堅調に推移している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	単価の動き	・来客数は依然として前年を下回っているものの、客単価の上昇がいまだに続いており、来客数の落ち込みをカバーしている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上の伸びは鈍化しているものの、来客数が前年を上回る状態を維持している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・インバウンドを始めとした観光客が増加しているものの、コンビニのメインターゲットである日常使いの客は間違いなく減っている。客の買上点数も依然として少ないままである。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前と比べて、特に変化がみられない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価がこれだけ上がり、消費者の実質賃金も減っている現状から、コロナ禍前のような消費の動きとはなっていない。安い商品を買うのが買物行動としてメジャーになっている。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・今年に入り、コロナ禍明けが鮮明となっている。新生活の時期を迎えて、新規客が明らかに増えており、忙しくなっている。ただし、衣替えに対する客の反応はとても鈍く、全体としてはややプラスの状況にとどまっている。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の前年比が毎月ほぼ変わっておらず、前年をやや下回って推移している。ただし、外国人観光客や観光関連の従業員が多い地域の店舗では来客数が伸びている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ここ数か月、新車の受注が低調に推移している。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、前年比の動きに変化がみられない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の高止まりにより、客の節約志向が強まっている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・僱事において、実際の商品を確認するために来場する客が多く、即決購入する客が少なかった。また、必要な物を必要数だけ購入する傾向も続いている。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・2月は天候に左右された。前半は温暖な日が多く、売上も良かったが、後半は降雪や低温の影響で地元客が減り、売上も今一つであった。ランチは満席近い利用がみられるが、夜は予約状況が悪く、団体客を中心に来客数が減っている。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・例年2月は来客数の落ち込む時期である。今年はインバウンド需要が回復しているものの、国内客は相変わらず厳しい状況にある。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・販売量が伸び悩んでいる。インバウンドを中心に利用はみられるものの、販売ペースが鈍化している。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前月と状況は変わらない。国内旅行の販売量は順調に推移しているが、海外旅行の販売量はコロナ禍前の3割程度までしか回復できていない。円安に伴う海外旅行の費用上昇、燃油サーチャージの高騰が影響している。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・コロナ禍からの反動需要が継続している。先行きの旅行に対する問合せが個人客、団体客共、多くみられる。旅行代金の設定についても、物価の上昇にけん引されて、ある程度の増額であれば、客に許容されるようになってきている。また、インバウンドの入込がコロナ禍前の数値に近づいていることもプラスである。

□	タクシー運転手	来客数の動き	・前年5月末に15%の運賃引上げを行ったほか、12月に200円の迎車料金を導入したことで、前年と比べて約20%の値上げとなっているなか、2月の売上は前年比プラス20%とまずまずであった。うるう年で例年よりも営業日数が1日多いため、その分の売上が前年より増えている。前年末から若いドライバーの採用ができるようになり、稼働台数が前年と比べてやや増えていることもプラスである。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・人手不足が顕著であるため、冬季繁忙期にもかかわらず、稼働率の向上につながっていない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・例年と同様に、冬を迎えて観光客などの利用が激減している。一方、地元客の利用はコロナ禍前の8割程度の水準まで回復している。
□	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・建売住宅が引き続き売れていない状況にある。それに伴って、材料や資材などの販売も停滞している。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購入意欲は依然として高い。事前に購入希望の部屋タイプとそれに合わせた予算を綿密にシミュレーションしている客も多く、商談に要する時間が比較的短い状況にある。
▲	スーパー(店 長)	販売量の動き	・加工食品や日用品については、商品単価が上昇しているなかでも、販売量が前年を上回って推移しているものの、野菜、肉、魚などの生鮮については、若干の商品単価上昇で販売量が前年を大きく下回る状況にある。3か月前と比較してもマイナス傾向での推移となっている。
▲	スーパー(企画 担当)	販売量の動き	・全体売上は前年を上回る傾向が続いているものの、内容をみると、商品単価が引き続き上昇している一方で、買上点数の減少幅が大きくなっている。エネルギーコストがかさむ冬本番を迎えて、客の買い控えが進んでいる。
▲	家電量販店(経 営者)	販売量の動き	・エアコンの販売は好調だが、その他の家電品の販売量が減少している。
▲	乗用車販売店 (経営者)	競争相手の様子	・前年12月と今年1月に相次いだ大手自動車メーカーの不正問題の影響で、多くの車種で受注停止や出荷停止などが生じたことで、新車販売台数が前年比50%、受注台数が前年比70%と厳しい状況となっている。収益にも大きく影響を及ぼしており、景気が良くなっているとはいえない状況にある。
▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・販売量が落ち込んでいる。物価高、とりわけ電気料金、灯油価格、ガソリン価格の高騰が大きく影響している。また、半導体製造企業の進出に伴い、一部の産業では景気が上向しているものの、関連のない地域や企業では、営業経費の高止まりにより、利益が減少しており、賃金の引上げが進んでいないこともマイナスである。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・大手自動車メーカーの不正問題の影響で工場が止まったことで、売上予想台数を下回る状況となっており、収益に影響を及ぼしている。
▲	自動車備品販売 店(店長)	販売量の動き	・レーダー探知機やドライブレコーダーなど、付加価値商材の購入者が減少している。必要最低限の設備で構わないと考える客が増加している。
▲	その他専門店 〔医薬品〕(経 営者)	お客様の様子	・2月も天候に大きく左右される結果となった。当店の主力客は60から80代にかけての年代が多く、外に出るのがおっくうになるほど、寒暖の差が厳しかったことが影響している。
▲	高級レストラン (スタッフ)	単価の動き	・景気は改善しつつあるが、販売施策の転換がうまく進んでおらず、売上の伸びは今一つであった。
▲	スナック(経 営者)	来客数の動き	・2月の状況をみると、前年と比べて、客足が鈍くなっている。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・インバウンドによる経済的な効果には地域差があり、当地はその恩恵にあずかることができていない状況にある。地域内消費は落ち込み気味であり、世間で騒がれているような景気回復は実感できない。

	▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・技術売上は前年と同じような金額で推移しているものの、関連商品の販売状況がかなり悪く、消費の引締め傾向がみられる。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年2月は来客数の落ち込む月だが、今年は前年や前月と比べても、落ち込み幅が大きい。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高が影響している。
	×	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・専門店では、客の予約をさばき切れないうらいの来店があるものの、大型商業施設での出店販売や量販店では、通信端末の販売に苦戦しており、競合相手にも大敗している。出店販売は都市部を中心に良い出店場所を競合相手に取られ、量販店は販売員の数で競合相手に負けている状況にある。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	*	*	*
	○	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・2月の販売量は前年比マイナス4%であり、3か月前の11月の販売量は前年比マイナス11%であったことから、景気はやや良くなっている。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・年度末を控えて、民間建築を除いた受注工事の大半が完工期を迎えている。年度計画を上回る完成工事高と利益が確定しており、次年度繰越工事の進捗によっては、一層の利益の上乗せも期待できる。
	○	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・観光需要の回復に加えて、半導体関連やその周辺企業の進出への期待感を背景に、ITやDX関連などの先行投資に大型化かつ案件量増加の動きが出てきた。
	○	広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・広告出稿量が堅調に推移している。
	○	司法書士	受注量や販売量	・建物新築案件の売上が増えている。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社の2月の売上は前年比90%を下回っているものの、同業者や建設業者などから、悪い話は聞こえてこないことから、業界全体の景気はやや良くなっている。当社の売上が前年を下回っているのは地域性が災いしているためとみられる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・公共投資、民間投資共、国内の建設投資は堅調に推移している。特に、九州や北海道からの引き合いが多い。ただし、建設資材や人件費の高騰など、留意すべき点もみられる。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注状況に変化がみられない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設設計案件はあるものの、工事に着手できない案件が増えている。工事費の高騰、施工者不足が原因であり、その原因を理解して着工するか、見送るかで動きが二分されている。着工する場合も工事費削減提案が必須になるなど、受注に向けての手間が増えていることもマイナスである。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・飼料原料は船の到着が順調なこともあって、堅調に推移している。輸入化学肥料は依然として需要減少の影響で取扱量が大幅に減少している。農産物関連は不作の影響で本州向けのトレーラー輸送が減少している。倉庫関連はバターの在庫が微減で収まっている。また、電気料金の負担増を抑えられていることも保管収益に寄与している。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・国内移出入貨物は冬場の工事停滞の影響もあって、軒並みダウンしている。輸入貨物は円安の影響で貨物量が増えておらず、厳しい状況が続いている。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年は稼働日数が少ないこともあって、売上が前年よりも減っている。物価上昇に伴って値上げを行っているにもかかわらず、売上が減っている状況から、商材の動きが悪い状況と考えられる。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月の能登半島地震によって大きな影響が生じている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・建設費の高騰や人手不足により、再開発などの設備投資において、計画の見直しや延期が発生している。円安の影響で日本で働くことを選択する外国人人材も減っており、人手確保にマイナスの影響が生じている。

	▲	司法書士	それ以外	受注量などはそれほど極端に減少しているわけではない。むしろ、一時的な動きかもしれないが、新たな法律の施行により増加傾向にある。ただし、物価の上昇やインボイス制度の導入などにより、企業の負担が実質的に増えていることから、景気が良くなっているようにはみえない。
	×	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・果物、特にりんごが凶作となったことで、商品が売れない状況にある。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人ニーズは引き続き底堅く推移している。業績が改善傾向にあることで、増員を目的とした求人が目立っている。今まで新卒採用で増員を賄っていた大手企業からも中途採用の依頼が増えており、新年度に向けて事業拡大を視野に入れていることがうかがえる。以前と比べて求人の給与を高く設定する企業も増えており、人材獲得が経営を左右することを企業が自認し始めていることがうかがえる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・どこの企業や店舗においても、人手不足を背景とした求人への潜在的ニーズはあるものの、募集しても求めるような人材が集まらないことから、求人決定率が極端に低下している。そのため、求人を控える動きがみられるようになっている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・建設業や貨物運送業などの求人数が減少している。人材が集まらないため、様々な方法で採用を試みている企業と諦めている企業の2極化が進んでいる。一方、タクシー業界や娯楽業界はインバウンド需要が少なからず増えていることで求人数が増加している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・インバウンドを始めとして観光客が増えていることで、経済の動きは良くなっている。ただし、円安や物価高の影響もあって、景気が良くなっているとは言い難い。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年5月から続く求人申込件数の落ち込みに若干の改善がみられるようになった。ただし、まだ力強さは感じられない。
	□	職業安定所（職員）	それ以外	・様々な商材の価格高騰に実質賃金の伸びが追いついていないため、景気は変わっていない。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・1月の有効求職者数は前年比4.1%増となり、増加傾向が続いている。新規求職者数は前年比0.8%増と前年並みの水準で推移している。新規求人数は前年比21.3%減と12か月連続で減少したものの、業況堅調な企業からは引き続き安定的に求人が公開されている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における1月の有効求人倍率は0.88倍であり、3か月前との比較では0.03ポイント下回った。
		▲	—	—
	×	*	*	*